

◆二十四番（田尻匠）（登壇）民主党を代表いたしまして、ただいまから代表質問をさせていただきます。

私の代表質問の中には、この奈良市を中心として、地域の問題を数多く触れさせていただいております。きょうは地元自治会の役員の皆さん方や、あるいは地域の関係ある皆様方にも傍聴に来ていただいておりますし、またテレビ放映も見ていただいているところがございます。知事はじめ、答弁を頂戴いたします皆様方にはわかりやすく、そして丁寧な答弁をお願いを申し上げまして、ただいまから質問に入らせていただきます。

まず最初に、京奈和自動車道（仮称）奈良インターチェンジの国への要望に伴い、奈良市八条・大安寺済生会奈良病院周辺地区におけるJR新駅設置構想についてお伺いいたします。

新たに設置される京奈和自動車道の（仮称）奈良インターチェンジとJR新駅は、まさしく場所が隣接しておりまして、絶好の位置となります。新しい奈良の幕あけの大きなビッグプロジェクトとして早急にプランを確定し、奈良県が積極的に音頭をとって施策を進めるべきだと考えております。

そこでまず、知事にお尋ねいたします。

知事は具体的に（仮称）奈良インターチェンジとJR新駅は何年に供用開始することを目標として取り組まれていくのでしょうか。現在、奈良県はインバウンドの効果や円安の影響で、近年まれに見る多くの観光客でにぎわっております。JR奈良駅や近鉄奈良駅、奈良公園一帯や世界文化遺産一帯には、国内はもとより、中国や韓国、台湾など国内外からもたくさんの皆様方がお越しをいただいております。地域経済の活性化や雇用の創出を生み出します。また、奈良のブランドカアップにも絶好の機会と捉え、今後の奈良県の新しい観光産業をつくり、飛躍させるためにも、この事業を確実に力強く推し進めるべきかと考えます。改めて（仮称）奈良インターチェンジとJR新駅周辺整備について確認させていただき、一日も早く工事に着手、完成させることが必要かと考えております。

新駅設置の事業費は約二十億円、JR関西本線の高架化は約百億円、駅前広場整備には約十八億円、都市計画道路西九条佐保線に約二百七十億円と言われております。総額が四百八億円という大変大きな事業でございます。国、奈良県、奈良市、JR西日本の費用負担が大事な関心事かと考えられますが、現在、どのように協議されているのか、進捗状況についてお伺いいたします。特に、奈良市におきましては、費用負担については大きな問題でございます。できる限り奈良県が主導権を持って進めるべきだと考えますが、いかがでございましょうか。

また、駅前広場の整備は奈良市が事業主体とされておりますが、京奈和自動車道の（仮称）奈良インターチェンジの出入り口や新駅の周辺整備であり、奈良県の主要玄関口の整備としての位置づけが必要と思われれます。奈良県が積極的に参画し、団体観光バスの待機場所や観光周遊バス、定期バスを中心としたバスターミナルの整備、地元生産の物品販売施設の整備など、拠点となる施設の整備を検討していくべきかと考えますが、いかがでございましょうか。

しかし、当地域は市街化調整区域も多くあり、また開発に対して法的規制も数々あるように承知しております。事業を確実に力強く推し進めるために、知事の強力なリーダーシップが必要かと思っておりますが、いかがでございましょうか。

次に、県立奈良病院、新奈良県総合医療センターについてお伺いいたします。

建築三十八年を経過して、老朽化や新医療機器の入れ替えや耐震化などの問題を抱え、建てかえを必要とされてまいりました県立奈良病院は、県議会をはじめ数々の議論の末、新しく奈良市七条西町の奈良県住宅供給公社が所有いたします山林へ移設、開院を目指すことになりました。造成工事を経て、約三万三千二百坪の敷地を確保し、工事費二百九十七億円の巨費を投じて、地上七階、地下一階、病床五百四十床を整備して、平成二十九年末の工事完成予定で、五月九日には起工式が挙行されました。私も出席させていただき、工事の安全と一日も早い開院をお祈りしたところでもあります。

新病院の主な機能は、三百六十五日、二十四時間断らない救急医療病院を最大のキャッチフレーズにして、高質ながん医療対策、高リスクの妊産婦に対応した周産期医療の充実など、県民、特に北和地域の約五十五万人の県民の命を守る超高度公立医療機関として、県民の多くの期待が寄せられている病院でございます。医師の確保、看護師の確保、職員の確保は大変大きな課題として考えておりますが、その展望についてお伺いいたします。

また、病院内の人的充実はもちろんでございますが、その新病院の周辺は大きく変貌しようとしています。まず、県道枚方大和郡山線の富雄川沿いは、既に去年、新しいビッグショッピング街としてイオンタウンがオープンいたしました。数々の店舗、飲食店、ホームセンター、家電ショッップなどが並ぶ、大きな商業地域として生まれ変わりました。また、医療機関や高齢者施設など、まさしく企業城下町ならぬ、医療城下町ができようとしています。

私が住まいをいたしております奈良市西千代ヶ丘地域からはイオンタウンまで車で五分、新奈良県総合医療センターまで十分というところに位置しておりますが、既に県道枚方大和郡山線の富雄川沿いは日々の生活道路として、朝夕を中心に大変渋滞を招いております。交通渋滞を激しくしないための道路対策は必須でございます。いかがお考えでございますでしょうか。

また、大和郡山市のショッピングモールアピタ北側の城町地内では、大和中央道に接続して、都市計画道路石木城線の整備が予定されているようでございますが、それだけではまだまだ不十分で、第二阪奈有料道路を南北に貫きます県道枚方大和郡山線中町工区の、道路の拡幅を含めた早期整備が必要だと考えております。現在の状況と今後の見通しについてお伺いいたします。

次に、交通渋滞のため、公共交通機関を利用する病院利用者の方は大変多くなると予想されておりますが、今の予定地は鉄道駅からのアクセスが非常に悪いと言わざるを得ないです。そこで、鉄道駅からバス、タクシーの利用が多くなると思いますが、バス事業者であります奈良交通株式会社との新路線についての協議が、現在どのように進められているのかお伺いいたします。

また、第二阪奈有料道路中町インターチェンジ付近の、平城遷都一三〇〇年記念事業のパーク・アンド・バスライドのための駐車場ございました県有地は、現在、空き地のまま放置されております。そこで、私の平成二十一年二月の本会議の代表質問の中を少し引用させていただきますと、そのときの質問の中で、駐車場を含めた新しい観光拠点にすべく、奈良市中町の第二阪奈有料道路中町インターチェンジ周辺に奈良市内渋滞緩和対策として、パーク・アンド・バスライドとして駐車場の整備計画がございます。奈良は食べる名物が少ないと言われており、道の駅や農産物や地元製品などの販売計画はもとより、私は食としての麺類の館などをぜひ計画すべきだと考えていると申しております。

この質問に対して荒井知事は、観光振興を図る上で食の魅力の創造・発信は、重要な要素と同感するところでございます。また、奈良は日本文化の基礎を形成した地でもございますが、また一方、日本の食文化のルーツも多く奈良にある歴史もございます。とりわけ、三輪はそうめんの発祥地とされ、三輪そうめ

んは日本の麺類を代表するブランドとなっており、新年度には魅力ある飲食店の創出を図るための新しい制度融資資金を創設いたしました。さらに、本年一月には、協定を締結した協定直売所のブランド名は、地の味土の香でございますが、そのようなものや商店街を対象に、飲食設備整備等への支援も考えております。日本の麺の始まりの地である奈良で麺類を用いたこだわりの食を提供すること、議員お述べのアイデアは、奈良の歴史文化の魅力と新たな切り口で伝える貴重なご提案と受けとめ、機会を捉えて協定直売所、あるいは商店街とともに検討してまいりたいと考えますと答弁していただいております。

あれから六年が経過いたしました。いまだに一向に計画すらされていない広大な県有地の空き地は、地元住民からも激しい意見が出ております。この際、新奈良県総合医療センターの整備に当たって、積極的に活用すべきだと考えますが、いかがでございましょうか。

また、奈良市六条地域の隣接します自動車学校跡地に、職員住宅や院内保育所を整備されると、先日発表されました。その隣には民間の提案で、新たな施設を導入されようとしていますが、早急に公募して事業を決定し、病院開院と同時に、病院の利用者や地域住民の皆さんに利用していただく施設をつくるべきだと強く要望してまいりたいと思います。

次に、奈良市三条大路一丁目、まさしく平城宮跡の真ん中に位置いたします、奈良市役所南側の県営プール、奈良警察署跡地の活用について知事にお伺いいたします。

奈良を代表するホテルの誘致や商業ゾーン、コンベンション施設の誘致を目指し、県営プールが平成二十年度に取り壊されてから七年もの間、計画が実行されてこなかった今日までの期間は、大変残念なロスタイムと言わざるを得ないと思っております。

奈良県は昨年、平成二十六年に国際級ホテル事業を担う民間業者を公募型プロポーザルにより募集し、森トラスト株式会社を優先交渉権者として選定されました。森トラスト株式会社はマリオット、コンラッドなど、有名ブランドのホテルを国内で経営し、運営され、高い評価を得ている企業とお伺いいたしております。ぜひ早急に奈良の中心となる地域を代表するホテルの一つとして、名声を打ち立てていただきたいと存じます。

そこでホテル事業の優先交渉権者である森トラスト株式会社とはどのような内容を合意し、決定されたのかお伺いいたします。ホテル事業の内容、権利区分など、詳細について決定されたことを県民の皆様方に発表すべきだと考えております。今日までの両者間の決定事項についてお伺いいたします。

同時に、国際級ホテル以外の土地については、二千人規模の会議が可能なコンベンション施設や屋内イベント施設や屋外多目的広場、駐車場、駐輪場、バスターミナル、空港リムジンや長距離バスの発着場、周遊バス停留所などを必須条件として新たに民間事業者の公募をすることですが、今日現在の状況、あるいは見通しについてお伺いいたします。もし、民間業者から一者も応募がなかった場合の対応は、いかがされるつもりなのでしょうか。また、県が直接施設を建設、運営することも選択肢としてあるのでしょうか。その点についてもお伺いいたします。

さて、このプロジェクトについて、この際、ライブプロジェクトを大胆に企画し、五千人規模のライブイベントの実施を目指した施設も、できれば必要ではないかと私は思います。今日のライブイベントの市場規模は、全国で二〇一〇年では公演数一万八千余り公演、動員数は二千六百万人、総売り上げは一千二百八十億四千万円と報道されております。その四年後の二〇一四年では、公演者数が一・五倍の二万七千五百公演、動員数が一・六倍の四千二百六十一万人、総売り上げは二・一倍の二千七百五十億円と発表されております。年々拡大しており、特にスタジアムやアリーナの平均動員数が大きく拡大されている

ようであります。関西のイベント会場の収容人員を調べてみますと、長居陸上競技場が四万七千八百十六人、阪神甲子園球場が四万六千二百二十九人、京セラドーム大阪が三万六千四百七十七人、大阪城ホールが一万六千人、なみはやドームが一万人以上の規模から、今度は大阪のフェスティバルホールの二千七百人、オリックス劇場の二千四百人、神戸国際会館の二千二十二人と、五千人規模のイベント会場が関西地区にないのが現状であるようであります。イベント関係者の方が五千人から八千人規模の会場が関西にあれば、有意義に活用でき、にぎわう地域ができると言われております。それに伴い、来場者によるイベントの前日、当日の宿泊を含め、平城宮跡や薬師寺、唐招提寺と、世界の文化遺産や周辺地域への観光、飲食等による地域経済への波及効果、奈良の名所旧跡等の認知度向上に大きく寄与することなど、効果は抜群だと思います。ぜひ、大胆な発想と構想を強く望んでおきたいと思っております。

次に、公立学校の耐震化と空調設備の整備について伺いをいたします。

今日、日本列島では口永良部島、御嶽山、浅間山、桜島をはじめといたしまして、全国各地で火山の噴火が頻繁に発生しており、大きな不安と心配を抱えている国民は大変多いと思われまます。奈良県や関西地域では、南海トラフ巨大地震が三十年以内に七〇%の確率で発生するのではないかと、文部科学省地震調査研究推進本部も予想しているとき、各地域自治会や学校、職場なども地震対策や防災訓練、非常用持ち出し袋の常備や、あるいは飲料水、非常食の確保など、それぞれの立場で大変努力していただいております。万が一地震が発生したときの避難所とされております場所は、学校、公民館、体育館が指定されておりますが、この場所が耐震化が完全にできているのか大変心配するものであります。そこで、確認をしたいと思っております。

県内の公立小・中学校の耐震化率は平成二十七年四月現在では、県内では奈良市の九〇%をはじめ、十四の市町村及び組合で耐震化率一〇〇%が達成されておられません。高等学校においては耐震化率七六・六%しかできていませんし、命を守る、学生を守るためにも早急に一〇〇%の耐震化を達成することが急務だと考えます。どのように取り組んでいかれるのでしょうか、教育長にお伺いいたします。

次に、空調、冷房設置状況について教育長にお伺いをいたします。

今日の異常気象は四季がなく、夏と冬、また一日の温度差が十度を超える日にちが大変多くなっております。そして、間もなく七月になりますが、もう既に熱中症で病院に搬送される人や学生がふえてまいっております。それぞれ個人がエコスタイルや水分補給など気をつけますが、公立学校での空調、冷房設備の設置率があまりにも低いのに驚いております。平成二十六年のデータでは、空調、冷房設備の設置率、小・中学校一六・三%、高等学校では四〇・五%と文部科学省が発表いたしております。今日では各家庭や施設など、空調が設備整備され、その中でエコ対応をして省エネ対策をとられておりますが、若い学生の皆さん方の今日の生活スタイルや体力的なことを考えますと、空調設備なしでは非常に厳しい学校生活状況ではないかと思っております。早急に空調設備設置を進めるべきと考えますが、いかがでございましょうか。

最後に、治安対策について、警察本部長にお伺いいたします。

先ほども触れましたが、最近、奈良県においても、海外からのお客様、観光客の多さは目をみはるものがあります。特にJR奈良駅から三条通り、近鉄奈良駅、奈良公園、春日大社、東大寺を中心に、ならまちや東向通り、餅飯殿通りを中心とするショッピング街など、本当に多くの方が奈良にお越しいただいております。奈良の活性化や地域の雇用を含めて大変うれしく思いますが、反面、奈良の治安について不安を感じるのも事実でございます。特に、イスラム国や国際テロは日時、場所を選ばず、特に人が多く集まり

やすい場所や公共交通機関がターゲットにされる場合が多いようではありますが、飛行機については金属探知機やボディチェックを含めて、かなり強化な対策をされていますが、電車、バスについては現在、ノーチェックで乗降できる体制でございます。奈良県では大阪や京都との交通アクセスのよさも含めて、電車、バスを利用しての来県が多いと考えます。

また、来年、お隣の三重県で伊勢志摩サミットが開催されます。それがゆえに、関西国際空港、伊丹空港、西名阪自動車道を含めて、世界の超VIPや国内VIP、関係者を含め、国内外を問わず多くの皆さんの鉄道、バスの移動が予想されます。安全でしっかりとした警備を行っていただく必要があると思います。

そこでまず、奈良県警察として電車、バスをはじめ、公共交通機関の国際テロ対策についてどのような取り組みをされているのか伺いたします。

また、駅頭や改札口、ホームや電車車両についても、テロ、防犯、治安、案内を含めて制服を着用された警察官の警らが大変有効であり、強化が必要かと考えます。また、奈良県警察の体制については、平成二十七年度は警察官が二千四百四十五名で、一人当たりの負担人口は五百六十九人と、全国では二十一番目に負担が大きいと聞いております。しかしながら、奈良県の警察官の定数は十年間で約百人の増員しかされておられません、今日の定数で十分な体制と言えるのでしょうか。

そこで、今後警ら体制の強化をするためには、奈良県警察官の増員をどのように考えておられるのか。私は必ず必要であると考えますが、いかがでしょうか。警察本部長にお伺いいたします。

以上をもちまして、壇上からの私の質問を終わらせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。(拍手)

◎知事(荒井正吾) (登壇) 二十四番田尻議員の県議会復帰後初めてのご質問がございました。ご答弁をさせていただきます。

最初のご質問は、JR新駅設置構想についてのご質問でございます。まず、連動しております(仮称)奈良インターチェンジとJR新駅は、いつごろに供用開始を目標としているのかというご質問でございました。

奈良市八条・大安寺周辺地区の事案でございますが、大和北道路の整備に合わせて、(仮称)奈良インターチェンジから奈良市中心部へのアクセス道路となります西九条佐保線の整備、またJR関西本線の高架化、またJR新駅の設置の三つのビッグプロジェクトがございます。国とも調整しつつ、県、奈良市、JR西日本、三者で協議・調整を図りながら、早期の事業着手に向けて取り組んでいるところでございます。現状を報告申し上げます。

現在、県では国に対し、大和北道路の大和郡山下ツ道ジャンクションから、(仮称)奈良インターチェンジまでの区間につきまして、平成三十年代半ばの供用を要望しております。国の直轄事業に対する要望でございます。これに合わせて整備を進めようとしております。今、申し上げました、西九条佐保線の整備、JR関西本線の高架化、それと合わせましたJR新駅の設置につきましても、平成三十年代半ばの供用を要望しております(仮称)奈良インターチェンジの供用に合わせまして完了できるよう、精力的に事業を進めていきたいと考えております。

この事業の費用負担についてのご質問がございました。どのような協議の進捗かというご質問でございます。(仮称)奈良インターチェンジ周辺整備事業の費用負担、事業費は、議員お述べのように四百八

億円にもなりますが、費用負担については国とも調整しつつ、県、奈良市、ＪＲ西日本の三者で現在、詳細な協議を行っております。

一つずつ申し上げさせていただきたいと思いますが、第一に西九条佐保線の整備でございます。本来、都市計画道路の整備は、市が基本的な役割を担うこととされておりますが、この西九条佐保線については、インターチェンジへのアクセスとなる四車線の幹線街路であるというふうにかえまして、県が事業主体となり、奈良市の負担は求めず、国の交付金と県の負担で事業を実施したいと思っております。二百七十億円の事業を国の交付金と県の負担で実施するもくろみでございます。

第二の事業でございます。ＪＲ関西本線の鉄道高架化事業につきましては、国の交付金やＪＲの負担等を除いて、県と奈良市で二分の一ずつ費用負担するのが原則になっておりますので、そのようにしていきたいと思っております。

三つ目の事業でございますが、ＪＲ新駅設置事業でございます。平成二十五年十月に県とＪＲ西日本が締結いたしました連携協定も念頭に置きまして、ＪＲ西日本も費用負担することを前向きに検討していただいております。具体的には、県からは国の交付金を除いて、約三三％出る予定でございますが、県、奈良市、ＪＲ西日本の三者が、一対一対一の費用負担割合で行うことを、ＪＲ西日本に提案しております。ＪＲ西日本も賛同していただいている案となっております。ＪＲ西日本としては、会社の機関決定が要るものでございます。この地域の新しいまちづくりの発想は、県が主体となって提案してきたところでございます。当初、道路が鉄道をまたぐ案になっていたのを、国に提案いたしまして、鉄道の高架化事業を実施し、そのついでにＪＲ新駅設置のアイデアも浮上した経緯もでございます。県といたしましては、事業の早期実現に向け、早急に費用負担割合が確定できるよう、手続を進めていきたいと考えている実情でございます。

ＪＲ新駅設置構想におけるまちづくりの取り組みについてのご質問が次にございました。

奈良市八条・大安寺周辺地区につきましては、県と奈良市がまちづくり連携協定を締結し、緊密に連携・協働して、駅前広場やその周辺整備に取り組んでいくことを約束した地域でございます。（仮称）奈良インターチェンジ及びＪＲ関西本線新駅を核とした、地域資源を活用した魅力あるまちづくりを目指していきたいと考えております。

その中で重要になります駅前広場の整備でございますが、駅前広場は奈良市が事業主体となります。観光振興など地域の活性化に寄与する基盤であり、まちづくりの中心となる拠点施設でございますので、県としても今議会で説明させていただいております。まちづくり連携協定の考え方に基づきまして、奈良市の負担額に対しまして、県はソフト事業二分の一、ハード事業四分の一の財政支援を行っていきたいと考えている対象でございます。

まちづくりの検討、実行は、県と奈良市が緊密な連携・協働して進めるべきものでございます。検討が進みますれば、目指すまちの姿が具体化してまいります。その段階で都市計画の区域区分の変更など、必要な都市計画上の手続を行い、まちづくりが着実に力強く進捗するよう、県としても最善を尽くしていきたいと考えているところでございます。

次のご質問は、新奈良県総合医療センターの医師・看護師確保のご質問でございます。

総合医療センターの移転整備や、断らない医療の実現に向けて、医師や看護師との確保は重要な課題でございます。議員お述べになったとおりでございます。平成二十六年四月と平成二十七年四月、この一年間を比較いたしますと、総合医療センターでは医師数が百二十三名から百三十六名と十三名も増加い

たしました。看護師数は四百三十四名から四百五十一名と十七名も増加いたしました。確実に人材の確保に努めていただいている状況でございます。特に、初期臨床研修医を今年度は十一名受け入れたところでございますが、募集定員に対して一〇〇%の受け入れを四カ年続けてきていただいております。また、専攻医を二十三名確保するなど、若手医師の確保も着実に進んでおります。全国的に医師・看護師の不足の中で、総合医療センターは頑張らせていただいているように思っております。

人材育成の面でございますが、奈良県立病院機構内に医療専門職教育研修センターを設置しております。次代を担う医療人育成に熱心に取り組んでいただいておりますが、これらの取り組みが医師と看護師の確保につながっているものと拝察しております。また、断らない医療の実現が目標でございます。県立医科大学では、この秋に断らない医療を実現いたしますが、新奈良県総合医療センターでも断らない医療をつくるんだという意気込みを表明していただいておりますが、七月より二名の救急専門医を確保していただきました。今後、県としても法人の人材確保・育成の取り組みに支援を惜しまないものでございます。

この新奈良県総合医療センターへのアクセスについてご質問がございました。

道路についてでございますが、県道枚方大和郡山線がございまして、生駒市と大和郡山市を結ぶ幹線道路でございます。この新奈良県医療センターの西側を走っている道路でございますが、昨年七月にご議決いただきました、奈良県道路整備基本計画におきまして、骨格幹線道路ネットワークに位置づけていただきました。新奈良県総合医療センターのアクセス道路としても、重要な道路と思われるところでございます。ご質問いただきました県道枚方大和郡山線の中町工区の問題でございます。国道一六三号清滝生駒道路から大和中央道までの間において、唯一、二車線のまま残された区間でございます。奈良市中町から石木町に至る約一・六キロメートルの区間で、平成二十四年度から四車線化の工事に取り組んでおります。

整備に当たる要衝が二つほどございます。まず、渋滞の主な原因となっております第二阪奈有料道路と交差いたします支点の下にございます砂茶屋橋というのがございますが、その富雄川の兩岸の二つに交差点がございます。二つの交差点を一カ所に集約する橋りょう改造を行っております。富雄川の西側から東側に渡るための橋りょう整備を計画しております。今年度はこの橋りょう工事の着手に必要となります砂茶屋橋東詰交差点南側の道路拡幅工事を実施しております。来年度には橋りょう工事そのものに着手してまいりたいと考えております。スムーズにこの橋を渡れるように斜めに横断する橋りょうの計画でございます。交差点より北側はまだ二車線で残っております。約一・四キロメートルのバイパス区間を整備することになっております。地元地域の方々への説明を精力的に進めているところでございます。地域にも随分職員の方が入っていただいております。できるだけ早期に用地買収に着手し、中町工区が一日も早く供用できるような事業体制をとっているところでございます。

また、道路とともに、バス路線の確保が重要であろうかというご指摘でございます。

事業者でございます奈良交通株式会社と既存バス路線の活用を基本に協議をしているところでございます。近鉄橿原線からのアクセスになります近鉄西ノ京駅と近鉄郡山駅から新病院までのバス運行についてでございますが、おおむね合意いたしました。現在、運行ルートや運行本数等について協議に入っているところでございます。

また、近鉄奈良線沿線でございますが、具体的には近鉄学園前駅からのバス路線ということになりますが、新病院周辺の商業施設の立地など、土地利用の変化が最近ございます。運行ルート等について協議

を行っているところでございます。新病院に来院される方の利便性の向上を図るため、今後も引き続きバス路線の確保などに取り組んでいきたいと思っております。

関連いたしまして、中町インターチェンジ付近の駐車場が空き地になっております。これをどうするのかというご質問がかってございましたし、今、改めてございました。

中町駐車場でございますが、議員ご指摘のように、平城遷都一三〇〇年記念事業の際に、奈良市内の交通混雑の緩和を図るため、奈良市内に車があふれて、にっちもさっちもいなくなるというおそれを計画し立てまして、急遽、パーク・アンド・バスライド駐車場として整備をしたものでございます。あそこで第二阪奈有料道路から来られる車を駐車していただき、そこからバス輸送するという計画でして、一部実現いたしました。その後の利用ということになります。第二阪奈有料道路と四車線化を進めている、今、申し上げました県道枚方大和郡山線が交差する交通の要衝でございますので、大事な地域でございます。約四ヘクタールのまとまった面積があるので有効活用したらどうかという声が随分ございます。

中町駐車場の新たな活用についてでございますが、これまで、一日道の駅といった社会実験は実施してきております。さまざまな角度から検討してまいりました。近年、周辺環境が随分変わってまいりました。新奈良県総合医療センターの建設が近くで進められているのも関係いたしまして、複数の大型商業施設が立地するとともに、療養型病院も立地するような環境になってきております。こうした周辺環境の変化がございますので、改めてまた引き続き検討を進めることが重要であろうかと思っております。中町駐車場の位置上、構造上の課題はこの中町から奈良方面への第二阪奈有料道路に乗るランプがまだないことでございます。かつて住民の方のご反対で実現しなかったランプでございます。改めてこの活用からは必要なアクセスだというふうにも認識しておりますので、あわせて検討すべき課題かと思っております。

当該駐車場は大変貴重な県有資産でございます。検討には慎重さが求められる対象であろうかと思っておりますが、道路事業により用地を購入いたしました。国の補助金も随分入っております。その経緯も踏まえますと、道の駅方式を基本にすることがいいのではないかと、現在考えております。また、道の駅を利用しようという国の動きは目覚ましいものがございますので、その応用・発展形として新たな創意工夫を凝らした地方創生の一つのプロジェクトという検討も可能かと思っております。民間活力も可能な範囲で導入できないかという検討も始めております。具体的な活用方策はまだお示しできない段階でございますが、本県独自の地方創生に資する県北部地域の拠点としての活用方策を検討しているものでございます。

県営プール跡地活用プロジェクトのご質問がございました。

ホテル事業の優先交渉権者である森トラスト株式会社とどのような内容を合意し、決定されたものであるかというご質問でございます。これまで公募によりまして優先交渉権者になられました森トラスト株式会社の選ばれた経緯については、公表してきているところでございますが、改めてご説明を申し上げます。

県営プール跡地活用プロジェクトの核となる国際級ホテルにつきましては、昨年十二月に森トラスト株式会社を代表とする企業グループを最優先交渉権者として選定されました。本年一月にはホテル事業の実現に向け、円滑な事業の推進に必要な基本的事業を定めた基本協定書を締結いたしました。このホテル事業は、民設民営により実施していただくことになっており、その内容は昨年の公募条件に基づいて提案されております。

具体的に申し上げますと、国際的な集客力を有するホテルであること、四つ星以上の格付を有するホ

テルブランドであること、上の方は四つ星か五つ星までしかございませんので、四つ星以上という条件でございます。百五十室以上の客室数と四十平方メートル以上の平均客室面積を有することなどが公募の条件となっております。これが実現できますと、今までの奈良にないホテルのグレードということになりますので、奈良を代表するフラッグシップホテルとなるものでございます。現在は二〇二〇年夏の東京オリンピック・パラリンピック開催までの運営開始に向け、取り組みを進めております。

また、本年度当初から、代表企業であります森トラスト株式会社とNHK奈良放送局、奈良市、県の四者でホテル、放送局、その他にぎわい施設の配置などを検討する計画協議を行いました。その結果、ホテルは大宮通り側、NHK奈良放送局は三条通り側に配置することで合意に至っております。

現在、森トラスト株式会社におきまして、条件を満たすホテルブランド運営事業者と具体的な契約に向けた手続が進められております。私といたしましては、できるだけグレードの高いホテルを持ってきていただくようお願いをしているところでございます。今後、これらの内容が決定次第、速やかに公表してまいります。

また、この県営プール跡地活用プロジェクトの中で、ホテル、NHKのほかにもにぎわいの空間をつくる事業の計画がございます。コンベンション施設などがございます。コンベンション施設などの整備、運営はPFI方式により、民間活力を導入して事業を進めていきたいと考えております。日ごろの運営がかかわってくるプロジェクトでございます。今後、本プロジェクトの公募に向けて、事業内容及び手法を記載する実施方針や施設の整備運営に関して、民間事業者に求める水準を記載する要求水準書案を公表したいと思っております。その公表した水準書案にのっとり、民間事業者の意見を求めていくこととなります。このようにして、いただいた意見などを参考として、事業内容の見直しを行い、民間事業者が応募しやすい環境を整えていく予定でございます。これまでも民間事業者の個別ヒアリングによりまして、本プロジェクトの整備運営について複数の民間事業者が関心を示されているところでございます。

また、景気が上向いている状況、また東京オリンピック・パラリンピックの時期を見据えたスケジューリングなども勘案すれば、応募いただける可能性は十分高いものと考えております。また、最近の外国人の来客の動向もでございます。懸念は工事費の増嵩ということでございますが、そのことをあわせまして、十分可能性はあるものと思っております。こうした状況でございますが、今後、民間事業者の意見をよく聞きながら、着実な進捗に最善を尽くしていきたいと思っております。

また、議員からは大規模集客施設建設についての積極的な発言がございました。

ご指摘のように、奈良市には大きなアリーナのような屋内集客施設はございません。しかし、屋外の集客施設はございます。今、ムジークフェストならの中で春日野園地で屋外ステージイベントを実施いたしました。天気にもよりますが、沖縄デーにおきましては一万八千人もの集客がございました。春日野園地はそれでもまだ埋まっておりません。春日野園地は全部埋まると、三万人もの集客が収容ができるステージフロアになるような施設を持っております。また、出演された方は若草山を見て、こんなすばらしい舞台で演奏できるのは初めてだという絶賛の声が届いており、観客の方からステージからの眺めは見えないわけでございますが、ただ若草山のような景色は、我々奈良県民は日ごろ見ておりますので、しかし出演者の方、沖縄の方が舞台に立って、若草山に向かって歌われるというのは、とても感激があるということを目の前にさせていただきました。

このほか、若草山以外でも、大極殿院の前などは大規模なイベントが実行可能だと思ひ、うまく入れれば十万人もの収容ができるイベント会場にもなることも夢見ております。今後の利用が文化庁の許可も

得て進むことを期待しているステージでございます。

余計なことを申し上げてしまいましたが、奈良市もなかなか捨てたものじゃないというふうにいるところで、私に対する質問は以上でございます。

質問、ありがとうございました。

◎教育長（吉田育弘）（登壇）二十四番田尻議員のご質問にお答えいたします。

私には二つの質問をいただきました。

一問目は県内の公立小・中学校及び高等学校の耐震化率一〇〇%達成に向けて、どのように取り組んでいくのかとお尋ねでございます。

文部科学省から発表されました、今年四月一日現在の公立学校施設の耐震改修状況調査による本県の耐震化率は、議員お述べのように、小・中学校は九四・〇%、高等学校は七六・六%、また特別支援学校は一〇〇%となっております。県教育委員会では、県立学校、高等学校と特別支援学校でございますけれども、県立学校につきましては、平成二十五年度から平成二十九年度までの五カ年を耐震化集中期間として、重点的に耐震整備に取り組んでおりまして、高等学校の残っております耐震補強工事につきましては、おおむねこの期間に完了させる予定でございます。一方、小・中学校につきましても、厳しい財政状況の中、それぞれの市町村で耐震化に取り組んでいただいているところでございます。今年度は七十七棟の耐震化工事を予定しておりまして、年度末の耐震化率は九九・〇%となる見込みでございます。県といたしましても、小・中学校の耐震化の早期完了に向けまして、財政負担の軽減を引き続き国の方に要望してまいります。

二問目は、公立小・中学校及び高等学校に早急に空調設備の設置を進めるべきだと考えるが、どうかのお尋ねでございます。

文部科学省が発表いたしました平成二十六年四月一日現在の公立学校の空調設備設置状況等調査によりますと、小・中学校は全国平均が二九・九%に対しまして、議員お述べのとおり、本県は一六・三%でございます。高等学校の方は全国平均が四三・四%に対しまして、本県が四〇・五%となっております。このうち、県立高等学校の普通教室における空調設備設置の状況は四九・四%となっておりますけれども、その大半は育友会等が設置しているのが現状でございます。

今年度、県立高等学校につきましては、新規事業といたしまして五校をモデル校に指定いたしまして、空調設備を設置することといたしております。今後は学習効率の向上や生徒の健康保持の点などから、空調設備の設置効果やその必要性について、奈良県総合教育会議のテーマの一つでございます奈良県教育の環境整備での議論を踏まえ、検討してまいりたいと思っております。

また、小・中学校への空調設備の設置につきましては、やはり設置者である市町村の判断に基づいて進められると考えておりますけれども、設置を希望する市町村に対しましては国の財政支援など、きめ細かな情報提供を行ってまいりますし、国に対しても予算の確保を要望してまいりたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

◎警察本部長（羽室英太郎）（登壇）二十四番田尻議員のご質問にお答えいたします。

私へのご質問は、電車、バスをはじめとする公共交通機関の国際テロ対策に関する取り組み及び警ら体制を強化するための、奈良県警察官の増員をどのように考えているのかという二点でございますが、

まず第一点目の国際テロ対策であります。国際テロ情勢につきましては、世界各地においてイスラム過激派によるテロ事件が発生しているほか、シリアにおける邦人殺害事件では、我が国がテロの標的と名指しされるなど、我が国へのテロの脅威が格段に高まっているものと承知しております。こうした中、来年五月二十六日、二十七日の両日、主要国首脳会議が三重県志摩市で開催されることから、隣接する当県もテロの脅威に対し、万全の対策を講じてまいりたいと考えております。

現在、当県における国際テロ対策といたしましては、テロの標的となり得る重要施設、公共交通機関、大規模集客施設等の安全を確保するため、施設管理者等に自主警備体制の強化を要請するとともに、議員ご指摘の鉄道、バスをはじめとする公共交通機関に対しましては、ターミナル駅構内において、警察官による駅頭警戒や巡回を強化し、あるいは列車に乗車しての警戒を実施し、その過程で積極的な職務質問による不審者や不審物件の発見に努めているところであります。

さらに、鉄道、バス事業者に対しましては、利用される乗客の方に不審物件発見の際には、積極的な通報を実施していただくよう、そういう注意喚起を実施していただくよう、お願いをしているところであります。また、要人等の来県に際しましては、その時々々の情勢を踏まえ、必要な対策を講じ、不法事案の未然防止に万全を期しているところであります。今後とも関係機関と連携を図りながら、的確な国際テロ対策を推進してまいり所存であります。

続きまして、二点目の警ら体制強化のための奈良県警察官の増員に関してのご質問についてであります。現行の体制につきましては、議員お述べのとおりでございますが、地方警察官の定員につきましては、全国的な治安水準の均衡を確保するため、警察法施行令の基準に従い、条例で定められているところであります。

県警察といたしましては、現状の限られた体制の中で、県民の皆様により質の高い治安水準が提供できるよう、業務の合理化と人員の効率的な配置を進め、議員お述べのとおり、制服警察官による警ら活動の一層の強化にも取り組んでいるところであります。

警察官の増員につきましては、これまでも機会あるごとに国や警察庁に要望を行ってきたところでありますが、今後も県下の治安情勢について十分な分析及び検討を行った上、必要な増員につきましては関係機関に対しまして要望を行ってまいりたいと考えております。

以上であります。ありがとうございました。

◆二十四番（田尻匠） 知事はじめ教育長、警察本部長に答弁を頂戴いたしました。

知事の答弁の中で、大変具体的にわかりやすく答弁をいただいた点が数点ございまして、まず最初のJR新駅、あるいは京奈和自動車道の（仮称）奈良インターチェンジにつきましては、おっしゃるとおりでございました。私どもが望んでおりました、早期に安全に、そしてやはり奈良県が主導権を持って進めていただくことが事業が早く進むこと、あるいは奈良の地域の活性化や、あるいは新しい奈良のブランド力になると、このように考えております。

そんな中で費用負担を含めて丁寧に答えていただき、また具体的に県の大きく前進する負担や、あるいは協力をしっかりと頂戴したと思っております。ぜひとも、その心意気で新しい駅とともに奈良の新しい観光産業の玄関口として、一日も早くこの工事が着手でき、そして多くの皆様方にお見えいただけるように、なお一層力強く推し進めていただくことをお願い申し上げたいと存じます。

また、二点目の新奈良県総合医療センターにつきましては、知事おっしゃるとおりでございまして、

今、交通渋滞を含めて、やはり周辺が生活道路として、あるいはショッピング街として新たなまちづくり、先ほども申し上げましたが、医療の城下町と申しましょうか、そんなまちになってきております。ある意味では大変熱い地域となっておりますが、それがゆえに交通渋滞をはじめといたしまして、日々の生活にも大変時間がかかる、このようなことを心配するものであります。新しく第二阪奈有料道路の中町インターチェンジの出入り口ができることになれば、また新しい交通渋滞緩和策になるのかなと、そのようにも期待をするものでございますので、またこの点についてもいろんな角度からご検討をいただきたいと思っております。

また、パーク・アンド・バスライドの駐車場で、もう長い間いろんな角度から研究、検討されてきたと思っておりますが、もうあれから六年ではありませんが、長きにわたってこのままの状態ではあまりにも県の財産、県民の財産がもったいないと、このように思うところでございます。幸いにも、新しい病院とともに新しい医療や、あるいは地域の皆様方に関係する施設として、ぜひとも早急に計画を立て、推し進めていただくことをお願い申し上げておきたいと思っております。

それから、きょうの答弁の中で、新しくバスの事業者であります奈良交通株式会社との協議の中で、今現在までに私どもが聞き及んでおりますのは、近鉄西ノ京駅からと近鉄郡山駅からは新しい路線としてバスを延伸させますと。その先は決まっていないかのように私どもは聞き及んでおりましたが、きょうの知事の答弁の中で、新しく近鉄学園前駅から新奈良県総合医療センターの方にバスを出すと、このような計画、あるいは意気込みを感じているところでございまして、大変ありがたいと思っております。

今現在、近鉄学園前駅から県立奈良病院のところにはバスが出ております。私も時々近鉄学園前駅で早朝から皆様方に県政の報告をさせていただいておりますが、いつも決まって一番のバスで病院へ行かれるお母様がおられます。お父さんが入院していて、そして毎朝、このバスで行くんですと。このバスがもしなくなることになったら、私たちはどうして行ったらいいんでしょうか。そんなことを率直に質問を頂戴したこともございます。それがゆえに、この新病院に対しましての交通のアクセスは、ぜひとも近鉄奈良線からの確保が必要かと思っておりますので、その辺は奈良交通株式会社とも具体的に、そしていろんな角度から協力をお願い申し上げる次第でございまして。

また、県営プールの跡地につきましては、知事もいろいろな観点からおっしゃっていただいておりますのでございまして。

先日、私も一緒に野外のコンサートに参加させていただきました。おっしゃるとり、大変すばらしい地域だと感動いたしました。雨のときは大変だなという、そういうのは率直に思ったところでございまして。知事もたびたび行かれておられたようでございまして、大雨のときにかっぱを着て大変苦慮されながら聞き入っておられた写真がございましたが、その辺も含めて、またいろんな新しい奈良の発見のためにお願いしたいと思っております。

教育長に対しましては、もうおっしゃるとおりでございますので、ぜひとも子どもたちの命を守る、健康を守るという点で、予算があるとか、財政がどうというより、これは一日も早く進めていく耐震化でございまして、なお一層協力をお願いしたいと思っております。

警察本部長はおっしゃるとおりでございます。県民の皆さん方はやはり命を守ること、財産を守ること、家族や地域を守ることに懸命に皆様方が苦慮されております。皆様方の格段のお力添えと、そしてともに奈良県を守るという、そういう強い決心のもとでこれからも警ら体制の強化をお願い申し上げます。私の代表質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。